

## (仮称)小柴貯油施設跡地公園整備計画 環境影響評価準備書に関する補足資料

1. 生物種のリスト及び名称について
2. 公園内の景観について
3. 事後調査（生物多様性）について

平成28年12月9日

横 浜 市



(仮称) 小柴貯油施設跡地公園整備計画環境影響評価準備書に関する補足資料

1. 生物種のリスト及び名称について

環境影響評価準備書（以下、「準備書」という）に掲載した動物種（ほ乳類、鳥類、は虫類及び両生類）の表記について、既存資料調査に基づく確認種及び現地調査による確認種とも最新の目録に基づき表記を整理しました。

準備書作成時に確認種目録作成の参考とした資料及び指摘を踏まえ参考とした資料は、表 1-1 に示すとおりです。

なお、指摘に基づき準備書に記載した内容を修正する箇所の一覧は、表 1-2 に示すとおりです。

表 1-1 確認種の整理に用いた資料

	準備書作成時に参考とした資料	指摘を踏まえ参考とした資料
ほ乳類	「日本産野生生物目録-本邦産野生動植物の種の現状-(脊椎動物編)」(平成 5 年、環境庁)	「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 27 年度版」(平成 27 年、国土交通省)
鳥類	「日本産野生生物目録-本邦産野生動植物の種の現状-(脊椎動物編)」(平成 5 年、環境庁)	「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年 9 月、日本鳥学会)
は虫類	「日本産野生生物目録-本邦産野生動植物の種の現状-(脊椎動物編)」(平成 5 年、環境庁)	「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 27 年度版」(平成 27 年、国土交通省)
両生類	「日本産野生生物目録-本邦産野生動植物の種の現状-(脊椎動物編)」(平成 5 年、環境庁)	「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 27 年度版」(平成 27 年、国土交通省)

注) 昆虫類及び水生生物の確認種の表記については、準備書作成時より「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 27 年度版」(平成 27 年、国土交通省)に基づき整理しました。

表 1-2 修正箇所一覧

準備書掲載頁	表番号・図番号等	
p.6-1-8	表 6.1-3	ほ乳類の確認種（既存資料）
p.6-1-9	表 6.1-4	鳥類の確認種（既存資料）
p.6-1-10	表 6.1-5	は虫類・両生類の確認種（既存資料）
p.6-1-11	表 6.1-8	ほ乳類の確認種（現地調査）
p.6-1-16～17	表 6.1-9 (1)、(2)	鳥類の確認種（現地調査）
p.6-1-18	表 6.1-10	は虫類の確認種（現地調査）
	表 6.1-11	両生類の確認種（現地調査）
p.6-1-22	表 6.1-15 (1)	注目すべき種（鳥類）
	表 6.1-15 (2)	注目すべき種（は虫類・両生類）

既存資料及び現地調査の結果、計画地及びその周辺において確認された種のリストについて、指摘を踏まえた修正内容を次ページ以降に示しました。評価書において修正します。

目科種の名称が変わっているもの、新しく追加されているもの及び、文章中の修正部分を網掛けで示しています。

●準備書における記載内容 (p. 6-1-8)

a ほ乳類

計画地及びその周辺において確認されたほ乳類は、表 6.1-3 に示すとおりです。

表 6.1-3 ほ乳類の確認種 (既存資料)

目	科	種
モグラ	モグラ	ヒミズ
		モグラ
コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ
ネズミ	アカネズミ	アカネズミ
		ハツカネズミ
ネコ	イヌ	タヌキ
	アライグマ	アライグマ
	ジャコウネコ	ハクビシン
合計 4目6科8種		

資料: 「旧小柴貯油施設動植物調査業務委託報告書」(平成 20 年 3 月、横浜市都市経営局基地対策課)

●指摘を踏まえた修正案

a ほ乳類

計画地及びその周辺において確認されたほ乳類は、表 6.1-3 に示すとおりです。

表 6.1-3 ほ乳類の確認種 (既存資料)

目	科	種
モグラ (食虫)	モグラ	ヒミズ
		アズマモグラ
コウモリ (翼手)	ヒナコウモリ	アブラコウモリ
ネズミ (齧歯)	アカネズミ	アカネズミ
		ハツカネズミ
ネコ (食肉)	イヌ	タヌキ
	アライグマ	アライグマ
	ジャコウネコ	ハクビシン
合計 4目6科8種		

資料: 「旧小柴貯油施設動植物調査業務委託報告書」(平成 20 年 3 月、横浜市都市経営局基地対策課)

注) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 27 年度版」(平成 27 年、国土交通省)を基に整理しました。

●準備書における記載内容 (p. 6-1-9)

b 鳥類

計画地及びその周辺において確認された鳥類は、表 6. 1-4 に示すとおりです。

表 6. 1-4 鳥類の確認種 (既存資料)

目	科	種	渡り 区分	目	科	種	渡り 区分	
ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	スズメ	モズ	モズ	留鳥	
コウノトリ	サギ	ダイサギ	留鳥		ヒタキ	ジョウビタキ	ジョウビタキ	冬鳥
		コサギ	留鳥				ノビタキ	通過鳥
		アオサギ	留鳥				イソヒヨドリ	留鳥
カモ	カモ	カルガモ	留鳥				アカハラ	冬鳥
		スズガモ	冬鳥				シロハラ	冬鳥
タカ	タカ	ミサゴ	通過鳥				ツグミ	冬鳥
		トビ	留鳥				ヤブサメ	通過鳥
		オオタカ	留鳥				ウグイス	留鳥
		ハイタカ	冬鳥				オオヨシキリ	通過鳥
		ノスリ	冬鳥				センダイムシクイ	通過鳥
		サシバ	通過鳥				セッカ	留鳥
		ハヤブサ	ハヤブサ				冬鳥	キビタキ
	チョウゲンボウ	留鳥	エゾビタキ				通過鳥	
チドリ	シギ	キアシシギ	通過鳥				オオルリ	通過鳥
	カモメ	ユリカモメ	冬鳥				コサメビタキ	通過鳥
キジ	キジ	コジュケイ	留鳥		エナガ	エナガ	留鳥	
		キジ	留鳥		シジュウカラ	ヤマガラ	留鳥	
ハト	ハト	キジバト	留鳥			シジュウカラ	留鳥	
		アオバト	通過鳥		メジロ	メジロ	留鳥	
カッコウ	カッコウ	ホトトギス	通過鳥		ホオジロ	ホオジロ	留鳥	
フクロウ	フクロウ	フクロウ	留鳥			アオジ	冬鳥	
アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	留鳥		アトリ	カワラヒワ	留鳥	
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥			シメ	冬鳥	
キツツキ	キツツキ	アオゲラ	留鳥		ハタオリドリ	スズメ	留鳥	
		アカゲラ	冬鳥		ムクドリ	コムクドリ	通過鳥	
		コゲラ	留鳥			ムクドリ	留鳥	
スズメ	ツバメ	ツバメ	夏鳥		カラス	オナガ	留鳥	
		コシアカツバメ	夏鳥			カケス	通過鳥	
		イワツバメ	夏鳥			ハシボンガラス	留鳥	
	セキレイ	キセキレイ	冬鳥	ハシブトガラス		留鳥		
		ハクセキレイ	留鳥	ハト		ドバト	留鳥	
ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	14 目	27 科	65 種	—		

資料: 「旧小柴貯油施設動植物調査業務委託報告書」(平成 20 年 3 月、横浜市都市経営局基地対策課)

●指摘を踏まえた修正案

b 鳥類

計画地及びその周辺において確認された鳥類は、表 6.1-4 に示すとおりです。

表 6.1-4 鳥類の確認種（既存資料）

目	科	種	渡り区分	目	科	種	渡り区分	
キジ	キジ	コジュケイ	留鳥	スズメ	シジュウカラ	ヤマガラ	留鳥	
		キジ	留鳥			シジュウカラ	留鳥	
カモ	カモ	カルガモ	留鳥	ツバメ	ツバメ	ツバメ	夏鳥	
		スズガモ	冬鳥			コシアカツバメ	夏鳥	
ハト	ハト	カワラバト (ドバト)	留鳥			ヒヨドリ	ヒヨドリ	ヒヨドリ
		キジバト	留鳥	ウグイス	ウグイス			留鳥
		アオバト	通過鳥		ヤブサメ			通過鳥
カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	エナガ	エナガ	留鳥		
ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	ムシクイ	センダイムシクイ	通過鳥		
		ダイサギ	留鳥	メジロ	メジロ	留鳥		
		コサギ	留鳥	ヨシキリ	オオヨシキリ	夏鳥		
カッコウ	カッコウ	ホトトギス	通過鳥	セッカ	セッカ	留鳥		
アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	留鳥	ムクドリ	ムクドリ	留鳥		
チドリ	シギ	キアシシギ	通過鳥	ヒタキ	シロハラ	冬鳥		
	カモメ	ユリカモメ	冬鳥		アカハラ	冬鳥		
タカ	ミサゴ	ミサゴ	通過鳥	ツグミ	ツグミ	冬鳥		
	タカ	トビ	留鳥	ジョウビタキ	ジョウビタキ	冬鳥		
		ハイタカ	冬鳥	ノビタキ	ノビタキ	通過鳥		
		オオタカ	留鳥	イソヒヨドリ	イソヒヨドリ	留鳥		
		サシバ	通過鳥	エゾビタキ	エゾビタキ	通過鳥		
		ノスリ	冬鳥	コサメビタキ	コサメビタキ	通過鳥		
フクロウ	フクロウ	フクロウ	留鳥	キビタキ	夏鳥			
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥	オオルリ	通過鳥			
キツツキ	キツツキ	コゲラ	留鳥	スズメ	スズメ	留鳥		
		アカゲラ	冬鳥	セキレイ	キセキレイ	留鳥		
		アオゲラ	留鳥		ハクセキレイ	留鳥		
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥	アトリ	カワラヒワ	留鳥		
		ハヤブサ	冬鳥	シメ	シメ	冬鳥		
スズメ	モズ	モズ	留鳥	ホオジロ	ホオジロ	留鳥		
	カラス	カケス	通過鳥		アオジ	アオジ	冬鳥	
		オナガ	留鳥					
		ハシボソガラス	留鳥					
		ハシブトガラス	留鳥					
			15 目	33 科	65 種	—		

資料：「旧小柴貯油施設動植物調査業務委託報告書」（平成 20 年 3 月、横浜市都市経営局基地対策課）

注）種名及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（平成 24 年 9 月、日本鳥学会）を基に整理しました。

渡り区分は、基本的に「神奈川県鳥 2006-10 神奈川県鳥類目録 VI」（平成 25 年、日本野鳥の会神奈川県支部）を基に整理しました。

●準備書における記載内容 (p. 6-1-10)

c は虫類・両生類

計画地及びその周辺において確認されたは虫類・両生類は、表 6.1-5 に示すとおりです。

表 6.1-5 は虫類・両生類の確認種 (既存資料)

類	目	科	種
は虫類	トカゲ	トカゲ	トカゲ
		カナヘビ	カナヘビ
		ヘビ	ジムグリ
			アオダイショウ
		クサリヘビ	マムシ
合計 1目4科5種			
両生類	カエル	ヒキガエル	ニホンヒキガエル
		アマガエル	アマガエル
		アカガエル	ヤマアカガエル
			タゴガエル
合計 1目3科4種			

資料：「旧小柴貯油施設動植物調査業務委託報告書」(平成 20 年 3 月、横浜市都市経営局基地対策課)

●指摘を踏まえた修正案

c は虫類・両生類

計画地及びその周辺において確認されたは虫類・両生類は、表 6.1-5 に示すとおりです。

表 6.1-5 は虫類・両生類の確認種 (既存資料)

類	目	科	種
は虫類	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ
		カナヘビ	ニホンカナヘビ
		ナミヘビ	ジムグリ
			アオダイショウ
		クサリヘビ	ニホンマムシ
合計 1目4科5種			
両生類	無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル
		アマガエル	ニホンアマガエル
		アカガエル	ヤマアカガエル
			タゴガエル
合計 1目3科4種			

資料：「旧小柴貯油施設動植物調査業務委託報告書」(平成 20 年 3 月、横浜市都市経営局基地対策課)

注) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 27 年度版」(平成 27 年、国土交通省)を基に整理しました。



●準備書における記載内容 (p. 6-1-11)

イ) 現地調査結果

ア) ほ乳類

現地調査で確認した種は、表 6.1-8 に示すとおりです。計画地内において中型種のタヌキ、小型種のヒミズ、アカネズミ等、4目7科8種を確認しています。

各種の確認地点は、図 6.1-2(1)～(4)に示すとおりです。

表 6.1-8 ほ乳類の確認種 (現地調査)

No.	目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季
1	モグラ	モグラ	ヒミズ	○	-	-	-
2			モグラ	○	○	○	○
3	コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ	○	○	-	-
4	ネズミ	リス	タイワンリス	○	○	○	○
5		ネズミ	アカネズミ	○	○	○	○
6	ネコ	アライグマ	アライグマ	○	○	○	○
7		イヌ	タヌキ	○	○	○	○
8		ジャコウネコ	ハクビシン	○	○	○	○
合計	4目7科8種			8種	7種	6種	6種

●指摘を踏まえた修正案

イ) 現地調査結果

ア) ほ乳類

現地調査で確認した種は、表 6.1-8 に示すとおりです。計画地内において中型種のタヌキ、小型種のヒミズ、アカネズミ等、4目7科8種を確認しています。

各種の確認地点は、図 6.1-2(1)～(4)に示すとおりです。

6.1-8 ほ乳類の確認種 (現地調査)

No.	目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季
1	モグラ (食虫)	モグラ	ヒミズ	○	-	-	-
2			アズマモグラ	○	○	○	○
3	コウモリ (翼手)	ヒナコウモリ	アブラコウモリ	○	○	-	-
4	ネズミ (齧歯)	リス	クリハラリス	○	○	○	○
5		ネズミ	アカネズミ	○	○	○	○
6	ネコ (食肉)	アライグマ	アライグマ	○	○	○	○
7		イヌ	タヌキ	○	○	○	○
8		ジャコウネコ	ハクビシン	○	○	○	○
合計	4目7科8種			8種	7種	6種	6種

注) 種名及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 27 年度版」(平成 27 年、国土交通省)を基に整理しました。

●準備書における記載内容 (p. 6-1-16)

b 鳥類

現地調査で確認した種は、表 6.1-9(1)～(2)に示すとおりです。

計画地及びその周辺において、12目26科55種を確認しています(ラインセンサス・ポイントセンサス調査結果の詳細は、資料編(p.2-1-3)参照)。

主な確認種として、水辺性の鳥類ではカワウ、ダイサギ、ミサゴ等、農耕地・草地・疎林性の鳥類ではチョウゲンボウ、キジ、カッコウ等、樹林性の鳥類はオオタカ、フクロウ、アオゲラ、ヒヨドリ、人家周辺や市街地に生息する都市型鳥類としてはツバメ、スズメ等を確認しています。猛禽類は、ミサゴ、トビ、オオタカ、ハイタカ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウを確認しましたが、繁殖に関する確認はありませんでした。

渡り区分としては、55種中、34種が留鳥、7種が夏鳥、12種が冬鳥、2種が旅鳥となっています。

表 6.1-9(1) 鳥類の確認種(現地調査)

No.	目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	
1	ペリカン	ウ	カワウ	○	○	○	○	
2	コウノトリ	サギ	ダイサギ	○		○		
3			アオサギ	○	○		○	
4	カモ	カモ	カルガモ	○	○			
5	タカ	タカ	ミサゴ		○	○	○	
6			トビ	○	○	○	○	
7			オオタカ	○	○	○	○	
8			ハイタカ				○	
9			ノスリ			○	○	
10		ハヤブサ	ハヤブサ			○		
11			チョウゲンボウ		○	○		
12		キジ	キジ	コジュケイ	○	○	○	○
13				キジ	○			
14	チドリ	カモメ	オオセグロカモメ			○		
15	ハト	ハト	キジバト	○	○	○	○	
16			ドバト	○	○	○	○	
17	カッコウ	カッコウ	カッコウ		○			
18	フクロウ	フクロウ	フクロウ		○			
19	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	○				
20	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	○	○	○		
21			コゲラ	○	○	○	○	
22	スズメ	ツバメ	ツバメ	○	○	○		
23			コシアカツバメ			○		
24			イワツバメ	○				
25		セキレイ	キセキレイ			○		
26			ハクセキレイ	○		○	○	
27			セグロセキレイ	○				
28			ビンズイ			○		

●指摘を踏まえた修正案

b 鳥類

現地調査で確認した種は、表 6.1-9(1)～(2)に示すとおりです。

計画地及びその周辺において、13目29科55種を確認しています（ラインセンサス・ポイントセンサス調査結果の詳細は、資料編（p.2-1-3）参照）。

主な確認種として、水辺性の鳥類ではカワウ、ダイサギ、ミサゴ等、農耕地・草地・疎林性の鳥類ではチョウゲンボウ、キジ、カッコウ等、樹林性の鳥類はオオタカ、フクロウ、アオゲラ、ヒヨドリ、人家周辺や市街地に生息する都市型鳥類としてはツバメ、スズメ等を確認しています。猛禽類は、ミサゴ、トビ、オオタカ、ハイタカ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウを確認しましたが、繁殖に関する確認はありませんでした。

渡り区分としては、55種中、34種が留鳥、7種が夏鳥、12種が冬鳥、2種が旅鳥となっています。

表 6.1-9(1) 鳥類の確認種（現地調査）

No.	目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季
1	キジ	キジ	キジ	○	-	-	-
2			コジュケイ	○	○	○	○
3	カモ	カモ	カルガモ	○	○	-	-
4	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	○	○	○	○
5			キジバト	○	○	○	○
6	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○	○	○
7	ペリカン	サギ	アオサギ	○	○	-	○
8			ダイサギ	○	-	○	-
9	カッコウ	カッコウ	カッコウ	-	○	-	-
10	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	○	-	-	-
11	チドリ	カモメ	オオセグロカモメ	-	-	○	-
12	タカ	ミサゴ	ミサゴ	-	○	○	○
13		タカ	トビ	○	○	○	○
14			ハイタカ	-	-	-	○
15			オオタカ	○	○	○	○
16			ノスリ	-	-	○	○
17	フクロウ	フクロウ	フクロウ	-	○	-	-
18	キツツキ	キツツキ	コゲラ	○	○	○	○
19			アオゲラ	○	○	○	-
20	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	-	○	○	-
21			ハヤブサ	-	-	○	-
22	スズメ	モズ	モズ	-	-	○	○
23		カラス	オナガ	○	-	○	-
24			ハシボソガラス	○	○	○	○
25			ハシブトガラス	○	○	○	○
26			シジュウカラ	ヤマガラ	○	○	○
27		シジュウカラ		○	○	○	○
28		ツバメ	ツバメ	○	○	○	-

●準備書における記載内容 (p. 6-1-17)

表 6.1-9(2) 鳥類の確認種 (現地調査)

No.	目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	
29	(スズメ)	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	
30		モズ	モズ			○	○	
31		ヒタキ	ジョウビタキ				○	
32			アカハラ				○	
33			シロハラ				○	
34			ツグミ				○	
35			ヤブサメ	○				
36			ウグイス	○	○	○	○	
37			オオヨシキリ	○				
38			キビタキ	○		○		
39			エナガ	エナガ	○		○	○
40			シジュウカラ	ヤマガラ	○	○	○	○
41		シジュウカラ		○	○	○	○	
42		メジロ	メジロ	○	○	○	○	
43		ホオジロ	ホオジロ	○	○	○	○	
44			ノジコ			○		
45			アオジ	○			○	
46		アトリ	カワラヒワ	○	○	○	○	
47			ベニマシコ				○	
48			シメ				○	
49		ハタオリドリ	スズメ	○	○	○	○	
50		ムクドリ	コムクドリ		○			
51			ムクドリ	○	○	○	○	
52		カケス	オナガ	○		○		
53			ハシボソガラス	○	○	○	○	
54			ハシブトガラス	○	○	○	○	
55		チメドリ	ガビチョウ	○	○	○	○	
合計		12 目 26 科 55 種			35 種	28 種	36 種	33 種

●指摘を踏まえた修正案

表 6.1-9(2) 鳥類の確認種（現地調査）

No.	目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	
29	(スズメ)	ツバメ	コシアカツバメ	-	-	○	-	
30			イワツバメ	○	-	-	-	
31		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	
32		ウグイス	ウグイス	○	○	○	○	
33			ヤブサメ	○	-	-	-	
34		エナガ	エナガ	○	-	○	○	
35		メジロ	メジロ	○	○	○	○	
36		ヨシキリ	オオヨシキリ	○	-	-	-	
37		ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○	
38			コムクドリ	-	○	-	-	
39		ヒタキ	シロハラ	-	-	-	○	
40			アカハラ	-	-	-	○	
41			ツグミ	-	-	-	○	
42			ジョウビタキ	-	-	-	○	
43			キビタキ	○	-	○	-	
44		スズメ	スズメ	○	○	○	○	
45		セキレイ	キセキレイ	-	-	○	-	
46			ハクセキレイ	○	-	○	○	
47			セグロセキレイ	○	-	-	-	
48			ビンズイ	-	-	○	-	
49		アトリ	カワラヒワ	○	○	○	○	
50			ベニマシコ	-	-	-	○	
51			シメ	-	-	-	○	
52		ホオジロ	ホオジロ	○	○	○	○	
53			ノジコ	-	-	○	-	
54			アオジ	○	-	-	○	
55		チメドリ	ガビチョウ	○	○	○	○	
合計		13目 29科 55種			35種	28種	36種	33種

●準備書における記載内容 (p. 6-1-18)

c は虫類・両生類

現地調査で確認した種は、表 6.1-10～11 に示すとおりです。

計画地内において1目4科7種のは虫類・両生類を確認しています。

は虫類は、樹林性のタカチホヘビ、ジムグリ、農耕地・草地性のカナヘビ、人家周辺にも生息するヤモリ、樹林から草地、水辺にかけて生息するシマヘビ、アオダイショウ、マムシ等を確認しています。

両生類は、浅い止水で繁殖するアズマヒキガエルとアマガエル、樹林に近い水辺で繁殖するヤマアカガエルを確認しています。

表 6.1-10 は虫類の確認種 (現地調査)

No.	目	科	種	春季	夏季	秋季	早春季
1	トカゲ	ヤモリ	ヤモリ			○	
2		カナヘビ	カナヘビ	○	○	○	○
3		ヘビ	タカチホヘビ			○	
4			シマヘビ	○			
5			ジムグリ	○			
6			アオダイショウ	○	○	○	
7		クサリヘビ	マムシ	○			
合計	1目4科7種			5種	2種	4種	1種

表 6.1-11 両生類の確認種 (現地調査)

No.	目	科	種	春季	夏季	秋季	早春季
1	カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル	○	○		
2		アマガエル	アマガエル			○	
3		アカガエル	ヤマアカガエル	○			
合計	1目3科3種			2種	1種	1種	0種

●指摘を踏まえた修正案

c は虫類・両生類

現地調査で確認した種は、表 6.1-10～11 に示すとおりです。

計画地内において 1 目 5 科 7 種のは虫類・両生類を確認しています。

は虫類は、樹林性のタカチホヘビ、ジムグリ、農耕地・草地性のニホンカナヘビ、人家周辺にも生息するニホンヤモリ、樹林から草地、水辺にかけて生息するシマヘビ、アオダイショウ、ニホンマムシ等を確認しています。

両生類は、浅い止水で繁殖するアズマヒキガエルとニホンアマガエル、樹林に近い水辺で繁殖するヤマアカガエルを確認しています。

表 6.1-10 は虫類の確認種（現地調査）

No.	目	科	種	春季	夏季	秋季	早春季
1	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ			○	
2		カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○	○	○
3		タカチホヘビ	タカチホヘビ			○	
4		ナミヘビ	シマヘビ	○			
5			アオダイショウ	○	○	○	
6			ジムグリ	○			
7		クサリヘビ	ニホンマムシ	○			
合計	1 目 5 科 7 種			5 種	2 種	4 種	1 種

表 6.1-11 両生類の確認種（現地調査）

No.	目	科	種	春季	夏季	秋季	早春季
1	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	○	○		
2		アマガエル	ニホンアマガエル			○	
3		アカガエル	ヤマアカガエル	○			
合計	1 目 3 科 3 種			2 種	1 種	1 種	0 種

●準備書における記載内容 (p. 6-1-22)

表 6.1-15(1) 注目すべき種(鳥類)

No.	目	科	種	選定基準					
				1	2	3	4		
						繁殖期	非繁殖期		
1	タカ	タカ	ミサゴ			NT	VU	NT	
2			オオタカ		国内	NT	VU	希少	
3			ハイタカ			NT	DD	希少	
4			ノスリ				VU	希少	
5			ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	CR+EN	希少
6	カッコウ	カッコウ	カッコウ				VU		
7	フクロウ	フクロウ	フクロウ				NT		
8	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ				減少		
9	スズメ	ツバメ	ツバメ				減少		
10			セキレイ	セグロセキレイ				減少	
11			ヒタキ	ヤブサメ				NT	
12				オオヨシキリ				VU	
13		キビタキ					減少		
14		ホオジロ		ノジコ			NT	希少	
15				アオジ				VU	
16		アトリ		カワラヒワ				減少	
合計	5目10科16種			0種	2種	5種	16種	5種	

※選定基準1~4は、表6.1-14参照。

表 6.1-15(2) 注目すべき種(は虫類・両生類)

	No.	目	科	種	選定基準			
					1	2	3	4
は虫類	1	トカゲ	へび	シマへび				要注
	2			アオダイショウ				要注
	3			クサリへび	マムシ			
	合計	1目2科3種			0種	0種	0種	3種
両生類	1	カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル				要注
	合計	1目1科1種			0種	0種	0種	1種

※選定基準1~4は、表6.1-14参照。



●指摘を踏まえた修正案

表 6.1-15(1) 注目すべき種(鳥類)

No.	目	科	種	選定基準				
				1	2	3	4	
							繁殖期	非繁殖期
1	カッコウ	カッコウ	カッコウ				VU	
2	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ				減少	
3	タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	VU	NT
4		タカ	ハイタカ			NT	DD	希少
5			オオタカ		国内	NT	VU	希少
6			ノスリ				VU	希少
7	フクロウ	フクロウ	フクロウ				NT	
8	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	CR+EN	希少
9	スズメ	ツバメ	ツバメ				減少	
10		ウグイス	ヤブサメ				NT	
11		ヨシキリ	オオヨシキリ				VU	
12		ヒタキ	キビタキ				減少	
13		セキレイ	セグロセキレイ				減少	
14		アトリ	カワラヒワ				減少	
15		ホオジロ	ノジコ				NT	希少
16			アオジ					VU
合計	6目13科16種			0種	2種	5種	16種	5種

※選定基準1～4は、表6.1-14参照。

表 6.1-15(2) 注目すべき種(は虫類・両生類)

	No.	目	科	種	選定基準			
					1	2	3	4
は虫類	1	有鱗	ヘビ	シマヘビ				要注
	2			アオダイショウ				要注
	3			クサリヘビ	ニホンマムシ			
	合計	1目2科3種			0種	0種	0種	3種
両生類	1	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル				要注
	合計	1目1科1種			0種	0種	0種	1種

※選定基準1～4は、表6.1-14参照。



## 2. 公園内の景観について

### (1) 海食崖の景観について

待受け擁壁とは、斜面下部から表層崩壊による土量を想定した位置に擁壁を設置して斜面上部からの崩壊土砂を受け止る擁壁のことをいいます（「図 2-1 断面イメージ図」参照）。

公園内の風化した崖面の表層の崩落による事故を防止し、公園利用者の安全を確保するため、必要な箇所に待受け擁壁を設置する計画です。

なお、待受け擁壁の種類は景観に配慮してコンクリート重力式擁壁ではなく、緑化補強土壁工とする計画です（図 2-2 及び図 2-3 参照）。

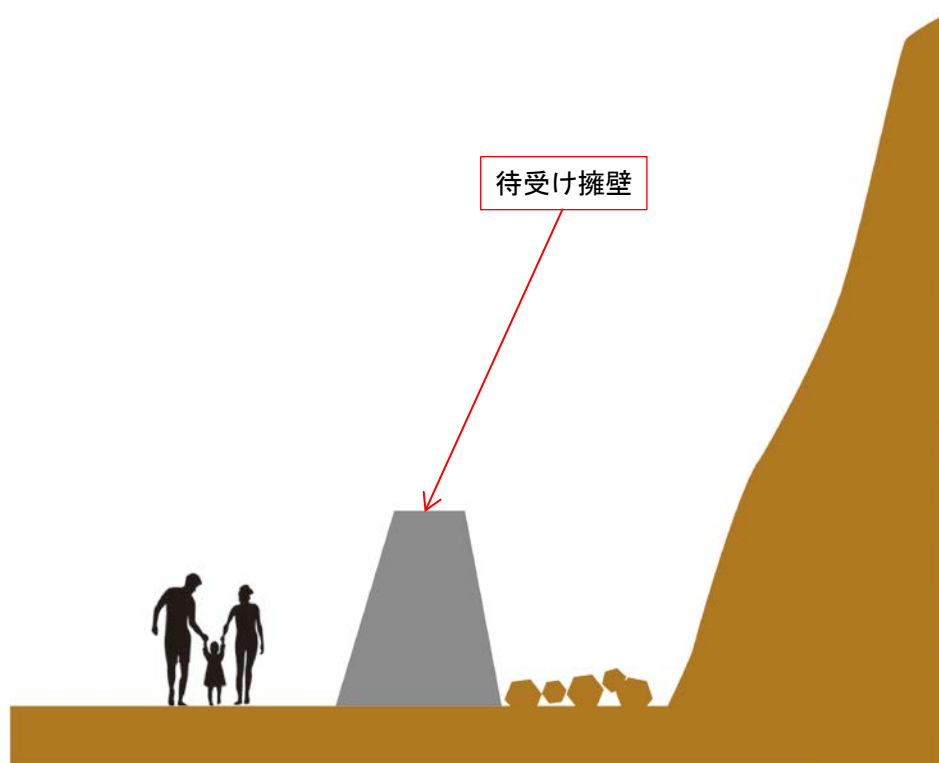


図 2-1 断面イメージ図

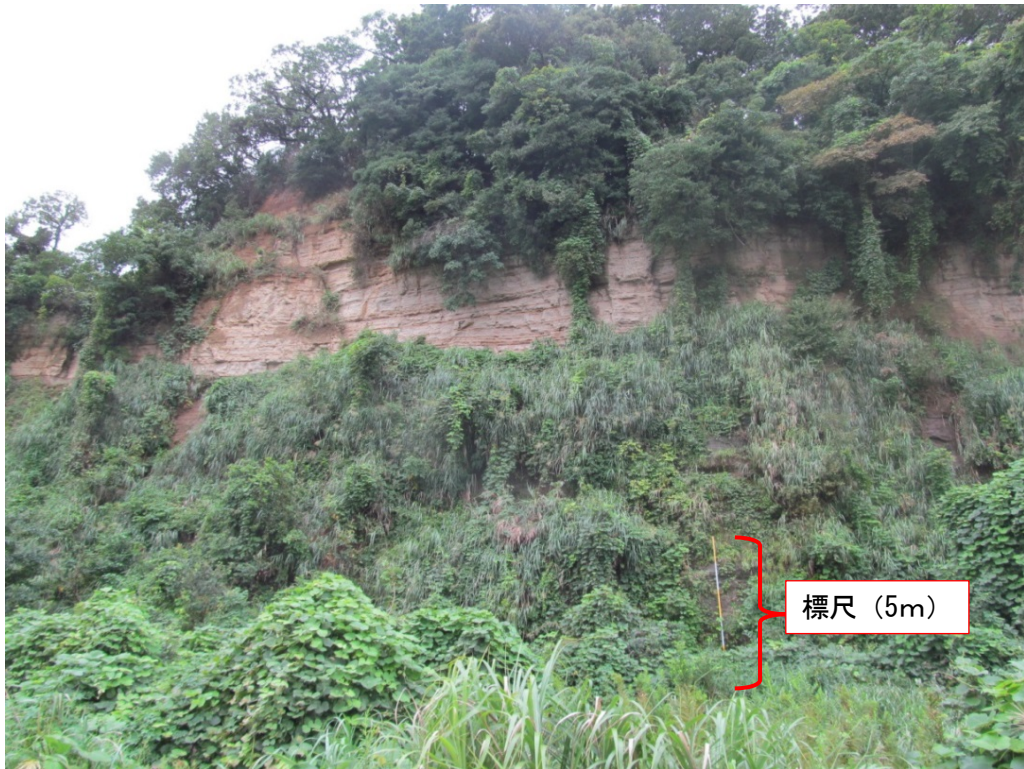


写真 2-1 計画地内の海食崖の状況（現況）

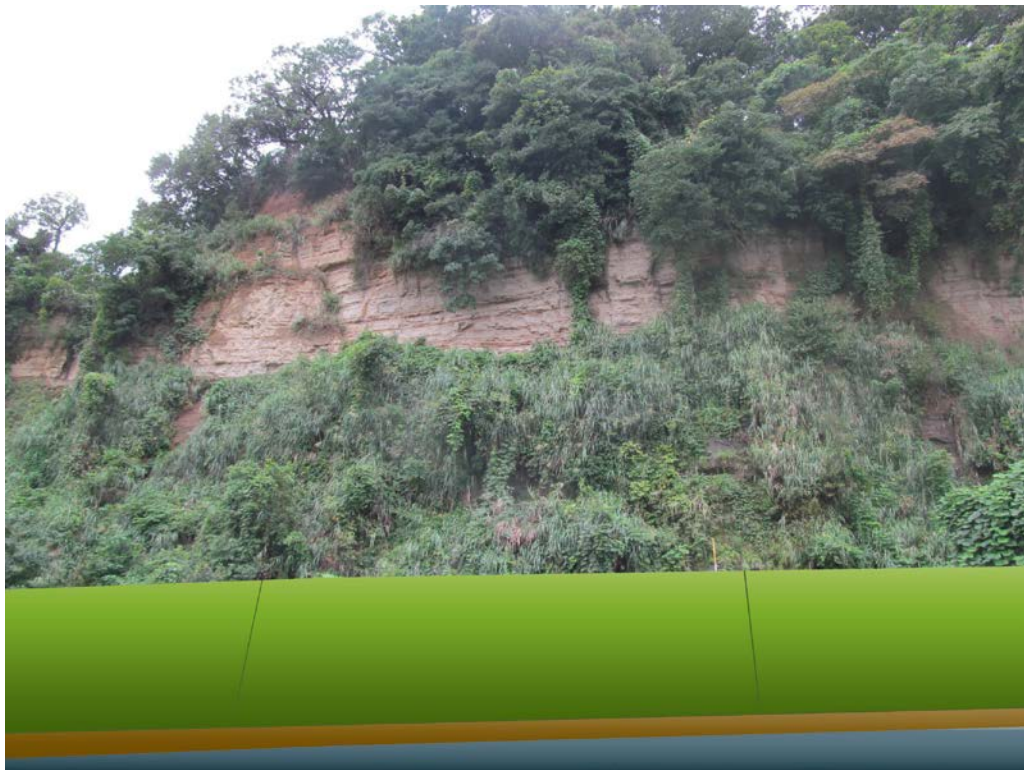
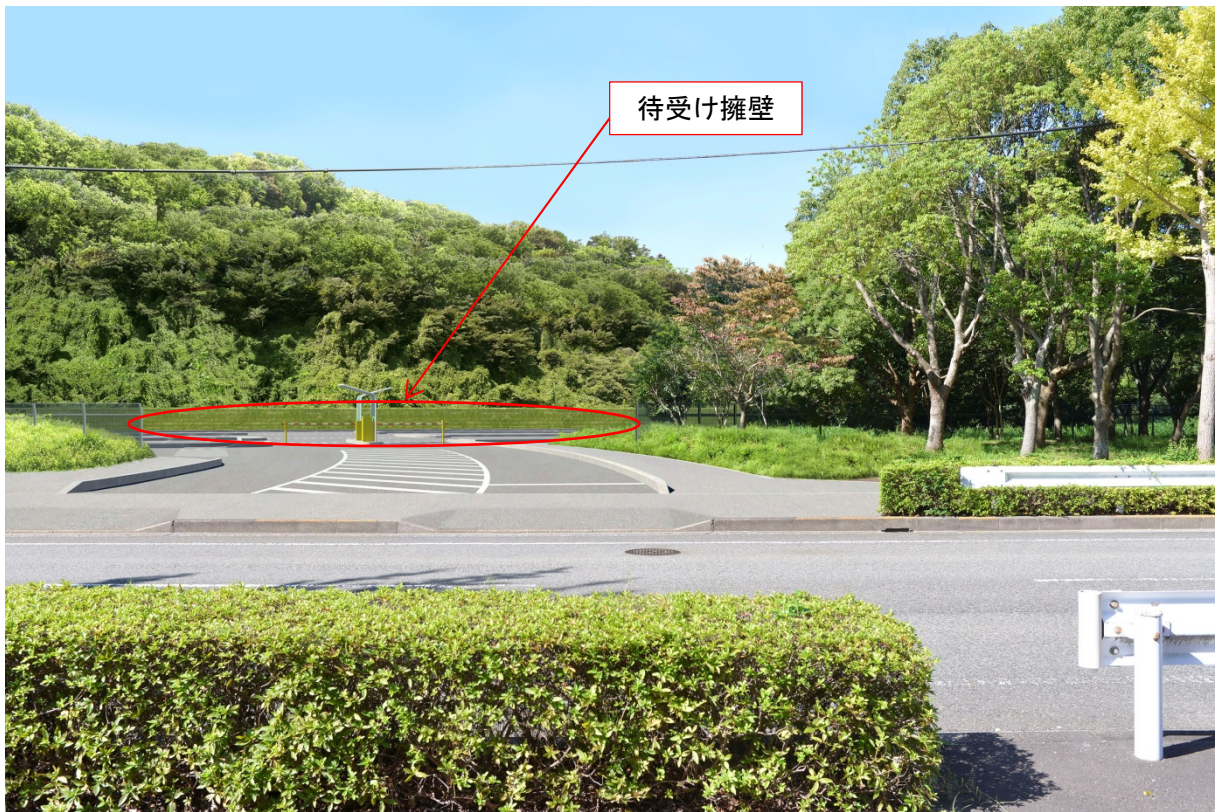


図 2-2 待受け擁壁（緑化補強土壁工）の設置イメージ



※環境影響評価準備書 (p. 6-11-13) 「図 6.11-2(4) 景観の変化 (地点 9 : 市道長浜 10 号線沿道)」中段【供用時】より。

図 2-3 市道長浜 10 号線沿道からの予測結果

## (2) 展望広場について

展望広場（図 2-4 参照）については、公園区域西側の高台（標高約 80m）の現況樹林内に整備する計画です。

整備に当たっては、極力、既存の地形や樹木を保全しながら整備する計画であり、展望広場として必要最小限の改変とする計画です。

なお、計画地周辺の主要な眺望地点からの見え方ですが、図 2-5 及び図 2-6 に示したとおりと予測します。



図 2-4 計画平面図




展望広場付近拡大図



施設整備イメージ






展望広場からの景観

<p>【現況】 平成 27 年 9 月 30 日撮影</p>	
<p>【供用時】</p>	
<p>景観の変化</p>	 <p>本地点からは、計画地西側の緑地の一部を眺望することができます。 本地点から眺望できるのは、計画地西側の樹林の上部であり、眺望できる樹林については改変の予定がないため、現在の景観から大きな変化はないと予測します。</p>

注) 環境影響評価準備書 (p. 6-11-15) 「図6.11-2(6) 景観の変化 (地点11: 市道谷津52号線沿道)」より

図2-5 景観の変化 (市道谷津52号線沿道)

<p>【現況】 平成 27 年 9 月 30 日撮影</p>	
<p>【供用時】</p>	
<p>景観の変化</p>	<div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>本地点は、計画地西側の出入口となる西柴台口となる地点であり、本事業で整備するフェンスや門扉等を眺望することができます。</p> <p>本地点からの眺望は、新たにフェンスや門扉を整備する計画ですが、可能な限り既存樹木を保全する計画であることから、現在の景観からの変化は少ないと予測します。</p> </div> </div>

注) 環境影響評価準備書 (p. 6-11-16) 「図6.11-2(7) 景観の変化 (地点12: 西柴台公園付近)」より

図2-6 景観の変化 (西柴台公園付近)



### 3. 事後調査の内容（生物多様性）について

生物多様性について、工事中は必要に応じて動植物の移植、移設による保全の措置を行います。また、供用時の保全の措置として、保全した環境が継続するよう保全エリアへの立入制限、樹林地内の下草刈り、せせらぎ内に堆積した土砂の泥上げなど行い適切に維持管理します。

保全の措置を行った結果を検証するために事後調査を行います。準備書記載の工事中の調査項目及び、工事中及び供用時の調査時期について補足を行います。

なお、事後調査報告書は各調査を行う都度提出します。

#### (1) 工事中の調査項目について

	移植、移設対象の考え方	想定する種
動物	注目すべき種のうち、改変する区域のみに存在が確認され、自力での移動が難しいと考えられる種	アズマヒキガエル、ヒロバネカントン、魚類1種
植物	改変区域にある注目すべき種で移植可能と考えられるもの	ラセイタソウ、アシタバ

#### (2) 工事中及び供用時の調査時期について

工事中 : 移植、移設の翌年

供用時 : 全体供用開始後1年程度経過後